

平成 31 年 1 月 18 日
政 策 統 括 官
(国土・土地、国会等移転)

国内最大級の競技場のデジタル地図を初公開 ～横浜国際総合競技場屋内での様々なイベントシーンに活用可能～

国土交通省は、屋内外の測位環境を活用した様々な民間サービスの創出が図られることを目指し、横浜国際総合競技場（日産スタジアム）の屋内電子地図をG空間情報センター※1にて本日から公開します。

これにより、「誰でも」「自由に」「無料で」屋内地図をダウンロードすることができ、屋内ナビゲーションアプリの開発などが可能となります。※2

【取組の経緯】

国土交通省では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、訪日外国人・高齢者・障害者を含む誰もが、屋内・屋外を問わずシームレスに目的地へ円滑に移動できる社会の実現を目指して、「高精度測位社会プロジェクト」を実施しています。（プロジェクトの概要については、別紙2参照）

プロジェクトでは、東京2020大会の競技会場であり、国内最大級の座席数を誇る横浜国際総合競技場において、屋内電子地図や屋内測位環境を整備し、その環境を活用した屋内外シームレスなナビゲーションサービスの実証実験を実施しました。

今回、屋内外の測位環境を活用した様々な民間サービスの創出に御利用いただけますよう、実証実験の際に整備した横浜国際総合競技場の屋内電子地図を東京駅周辺・新宿駅周辺屋内地図に続き、G空間情報センター（<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/mlit-indoor-yokohama-arena>）にて公開いたします。

【今回公開する横浜国際総合競技場屋内地図】※別紙1参照

- ・ 国土地理院の標準仕様※3に基づき作成された、国内最大級の競技場の屋内地図。
- ・ サービスの基盤となる屋内地図として、スタンドを含む競技場の各階層について、通路や階段、トイレ等のデータを整備。
- ・ 通路の段差や勾配等を含む屋内ネットワークデータも公開しており、段差を回避したバリアフリールートの検索等のサービスも開発可能。

※1 G空間情報センター：平成28年に稼働が開始された産学官の地理空間情報を扱うプラットフォーム。官民間問わず様々な主体により整備・提供される多様な地理空間情報を集約し、利用者がワンストップで検索・ダウンロードし利用することが可能。

※2 アプリの作成に際して調査などを行う場合は、施設管理者の許可が必要。

※3 「階層別屋内地理空間情報データ仕様書（案）」（平成30年3月）

〔問合せ先〕国土政策局国土情報課 井上、二宮

電話：（代表）03-5253-8111（内線29823、29825）／（直通）03-5253-8353、FAX:03-5253-1569